

平成26年度

教育委員会 点検と評価

加東市教育委員会

はじめに

平成26年度の加東の教育のスローガンは、引き続き平成21年度から目指している「人間力の育成」とし、学校教育の分野では、確かな学力の定着、豊かな人間性の育成、健康体力づくり、不登校・いじめ等に対応する校内体制の整備等安全・安心で信頼される学校づくり、また、生涯学習の分野では、青少年健全育成、成人学習の充実、芸術・文化活動の振興、文化財保護事業の推進や生涯スポーツの普及、人権教育の分野では、共に生きる社会の実現に向けた人権教育・啓発の推進や男女共同参画事業の推進、図書館では資料・情報提供の充実や魅力ある蔵書の整備・充実など、幼児から高齢者に至る様々な教育活動を展開してきました。

また、これまで、学校施設の耐震化100%、空調施設整備やICT機器の導入など学校教育環境の充実に積極的に取り組んできましたが、平成25年度から学校トイレの洋式化の推進など環境整備も含め、今後は教育内容そのものの充実を推進していくこととしました。

とりわけ、平成25年度から新規・重点事業の内、特に重点的に取り組んでいく事業を、加東の教育「かとう夢プラン」と位置づけ、様々な事業を推進してきました。

これらの取組みの一つ一つが「人間力の育成」に繋がり、加東市が掲げる「文化よし」のまちづくりの達成のための重要なステップだと考えており、平成26年度も概ね成果を挙げてきたと感じております。

今後も「加東市教育振興基本計画（平成23年度作成）」に沿って、「学びから新しい自分づくりと地域づくりを目指す加東市に！」の実現のため積極的に取り組みます。

この報告書は、平成20年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検と評価を行うことが義務付けられ、併せて、議会へ評価の結果を報告し、公表しなければならないとされたことに基づくものです。

そこで、加東市教育委員会において、外部の方々の意見を聞きながら、加東の教育の点検と評価を行い、諸事業の成果と課題を明確にし、次年度への発展につなげていきたいと考えています。

ご高覧いただき、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

平成27年3月

加東市教育委員会

目 次

1	教育委員会の活動及び運営状況	1
	（1）教育委員会委員	1
	（2）教育委員会の開催状況及び付議された議案等	1～2
	（3）教育委員会以外の主な活動状況	3
2	平成26年度 加東の教育目標	4～7
3	平成26年度主要事業の点検と評価	
	（1）学校教育課	8～12
	・確かな学力の定着	8～9
	・豊かな人間性の育成	10
	・健康体力づくり	11
	・安全・安心で信頼される学校づくり (青少年センター)	12
	（2）生涯学習課	13～18
	・青少年の健全育成	13
	・生きがいづくり	14
	・芸術・文化活動の振興および実施	15
	・文化財保護の推進と活用	16
	・生涯スポーツの普及と振興	17
	・施設の管理・運営	18
	（3）人権教育課	19～20
	・人権教育・啓発の推進	19
	・男女共同参画事業の推進	20
	（4）中央図書館	21
	・市立図書館の充実	21
	（5）教育総務課	22～24
	・教育委員会の運営	22
	・安全・安心で信頼される学校づくり	23
	・健康体力づくり	24
4	評価委員所見	25～26

1 教育委員会の活動及び運営状況

(1) 教育委員会 委員

区 分	氏 名	任 期
教 育 委 員 長	大 島 巧 男	平成26年5月27日～ 平成30年5月26日
委員長職務代行者	藤 本 洋 二	平成23年5月27日～ 平成27年5月26日
委 員	神 崎 芳 美	平成24年5月27日～ 平成28年5月26日
委 員	浅 川 る り	平成25年5月27日～ 平成29年5月26日
教 育 長	藤 本 謙 造	平成26年5月27日～ 平成30年5月26日

(2) 教育委員会の開催状況及び付議された議案等

開催日	番 号	案 件 名
4月28日	第1号議案	加東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則制定の件
	第2号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第3号議案	教育委員会に係る事務の管理及び執行状況の点検及び評価の公表について
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 5件
5月27日 (臨時)	第1議事	加東市教育委員会委員長の選任について
	第2議事	加東市教育委員会委員長職務代行者の選任について
	第3議事	加東市教育委員会教育長の任命について
5月27日	第4号議案	附属機関委員等の委嘱の件
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 7件
6月27日	第5号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放の件
	第6号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 6件
7月31日	第7号議案	平成27年度教科用図書(検定本)における採用について
	第8号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 23件
8月28日	第9号議案	平成27年度学校教育法附則第9条に基づく一般図書採択について
	第10号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	教育委員会制度改革及び公共施設適正化の考え方について

	報 告	後援名義の使用許可 8件
9月30日	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	平成26年度加東の教育(各課の取組み)ホームページ掲載について
9月30日 (臨時)	第1議事	加東市公共施設適正化配置計画について
	第2議事	加東市小中学校の今後のあり方について(加東市学校規模適正化方針)
10月28日	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 12件
11月21日	第11号議案	加東市立幼稚園保育料等徴収条例の一部を改正する条例を制定することについて
11月28日	第12号議案	加東市立幼稚園、小学校及び中学校の職員の服務に関する規程の一部を改正する規則制定の件
	報 告	平成26年度新規予算要求重点事業(サマーレビュー分)
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 6件
12月26日	第13号議案	義務教育諸学校用教科書の採択に関する組織の選択について
	第14号議案	加東市立幼稚園保育料等徴収条例施行規則の一部を改正する規則制定の件
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 7件
1月30日	第15号議案	雑誌スポンサー制度の導入について
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 4件
2月20日 (臨時)	協議事項	小中一貫教育について
2月27日	第16号議案	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例を制定することについて
	第17号議案	加東市教育長の勤務時間、休暇等及び職務専念義務の特例に関する条例を制定することについて
	第18号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館条例施行規則の一部を改正する規則制定の件
	第19号議案	平成27年度加東市教育委員会関係予算について
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 9件
3月30日	第20号議案	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整理に関する規則制定の件
	第21号議案	加東市教育委員会公印規程の一部を改正する規程制定の件
	第22号議案	加東市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則施行規程の一部を改正する規程制定の件
	第23号議案	加東市教育委員会就学援助規則の一部を改正する規則制定の件
	第24号議案	加東市教育委員会就学援助要綱の一部を改正する要綱制定の件
	第25号議案	加東市立幼稚園型一時預かり事業実施要綱制定の件
	第26号議案	教育委員会事務局職員の任免の件
	報 告	小中一貫教育研究会の設置について(案)
	報 告	各課主要行事予定・報告
	報 告	後援名義の使用許可 1件

(3) 教育委員会以外の主な活動状況

教育委員会委員は教育委員会への出席以外に次の行事等に出席しました。

- 市議会
 - ・本会議(教育長)
 - ・予算特別委員会、決算特別委員会、各常任委員会(教育長)
- 市内施設訪問
 - ・学校給食センター訪問
- 学校訪問
 - ・学校訪問:5月30日、6月3日、6日、9日、12日
- 各種学校行事
 - ・小中学校入学式、幼稚園入園式
 - ・小中学校PTA総会、幼稚園PTA総会
 - ・学校園オープン:5月(5校)、6月(10校園)、7月(2校)、10月(12校園)、11月(14校園)、12月(4校園)、1月(7校)、2月(7校)、3月(2校)
 - ・水泳交換会
 - ・幼稚園小学校運動会、中学校体育祭
 - ・小中学校音楽会・発表会
 - ・学習発表会
 - ・学校経営研究発表会
 - ・ICT教育推進事業実践校発表会
 - ・小中学校卒業証書授与式、幼稚園卒園式
 - ・小中学校長会、幼稚園長会(教育長)
- 各種会議及び研修会
 - ・市町組合教育委員会教育長会議(教育長)
 - ・兵庫県都市教育長協議会(教育長)
 - ・兵庫県女性教育委員の会総会・研修会(女性教育委員)
 - ・播磨東教育委員会連合会理事会(教育長)
 - ・播磨東教育委員会連合会総会及び研修会
 - ・全県教育長研修会
 - ・近畿市町村教育委員研修大会
 - ・播磨東地区教育長・教育委員連合会合同研修会
 - ・新任教育委員研修会
- その他行事等
 - ・加東市新成人の集い
 - ・各種市内イベント・大会及び研修会等

2 平成26年度 加東の教育目標

スローガン「人間力の育成」

－ 学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！ －

経済状況の悪化に端を発した社会不安など、教育を取り巻く状況は引き続き厳しいものがあり、子どもにも深刻な影を落としている。また、他人を思いやることの喪失、基礎学力、体力の低下など、教育の課題は山積している。

そこで、26年度も加東の教育のスローガンを平成21年度から目指している「人間力の育成」とした。

人間は、自らの学びや他者との学び合いによって、心身共に成長するものである。何歳になっても、「新しいことがわかった」「できた」といった自分の変容に、学ぶことの喜びや生きがいの原点がある。学びをとおした市民の生きがいづくりを目指し、「人間力」の向上を図っていくことは、学びから新しい自分づくりと地域づくりを目指す加東市の実現に繋がっていくものと考えている。

■ 主要施策

1 教育総務課（学校給食センター）

(1) 教育委員会の運営

教育委員会が加東市教育の推進役を担うため、積極的に学校訪問、各種研修会等に参加し、見識を広め、学校、社会教育等に提言、助言を行う。

(2) 学校教育施設・備品等の管理、整備及び充実

安全・安心で質の高い教育環境の確保のため、計画的に学校施設整備等を行う。

(3) 教育委員会職員教育

- ・職員の職能意識の高揚を図り、事務効率を高めるように努める。
- ・市民サービス感覚を絶えず持ち続け、市民に開かれた教育委員会事務局になるよう努める。

(4) 学校給食の提供

- ・学校給食を活用し、食育指導を行う。
- ・地産地消の推進、楽しみのある学校給食特別メニューの実施等による魅力ある学校給食を行う。
- ・学校給食に対する理解を深めてもらうため、給食センター見学会、親子料理教室、給食試食会等を実施する。

2 学校教育課（青少年センター）

「確かな学力と思いやりのところを育てる」、また「強い体と精神力を培う」など、今

日、学校は大きな使命を担っている。そのために、時代の要請を捉えながら、教育の普遍的側面である「人間の成長」という視点からしっかりした目標、方針を確立することが大切である。そこで、次の重点項目を掲げることによって、加東市の教育の進展を図っていくこととした。

(1) 幼児・児童・生徒に対して

- ① 子ども達に「確かな学力」「思いやりのこころ」「強い体」を身につけさせる。
- ② 全国学力・学習状況調査の結果により、学力の把握に基づくきめ細かな指導の充実に努める。
- ③ いじめ防止基本方針に基づき教職員の協働体制を充実させ、いじめの根絶を目指す。
- ④ こころに悩みを抱えた児童・生徒に対して、早期発見に努め、悩みの解決に向けた支援体制を整える。
- ⑤ インクルーシブ教育システムを充実させ、一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かい教育的な支援を行う。
- ⑥ 地域、保護者や警察等関係機関と行動連携を保ちながら、より一層、子ども達の安全の確保に努める。

(2) 教職員に対して

- ① 教員の指導力の向上を目指す。特に、授業分析を行い、授業を論理的、構造的に組み立てる力を養うとともにICTを活用した効果的な学習指導の研究をすすめることで、児童・生徒の思考力・判断力・表現力の向上につなげる。
- ② 管理職に対して、学校運営に不可欠な教育論、授業論、教師論など教育理念の研修を深め、リーダーとしての資質の向上を図る。
- ③ 管理職は、教職員の専門性と実践的な指導力の向上を目指し、教職員一人一人及び教師集団に対する指導を徹底する。
- ④ 学校評価によって判明した学校経営の課題や成果を、保護者や市民に対して説明責任を果たし、開かれた学校づくりを推進する。

(3) 保護者に対して

- ① 家庭教育の在り方に関する研修機会を提供し、たくましく、こころ豊かな子どもの育成に役立てる。また、保護と育成の視点を明確にし、自立への支援を行う。
- ② 基本的な生活づくり、健全な食生活づくり、安らげる場づくり等、家庭の役割を明確にし、健やかな子どもの育成につなげる。

3 人権教育課

- (1) 加東市人権・同和教育研究協議会の活動を通して、各地区毎にきめ細かい人権意識の高揚を図り、人権尊重のまちづくりを進める。
- (2) 各種人権講演会等を通して、様々な人権問題の早期解決や人権尊重のまちづくりを推進する。
- (3) いじめや虐待、インターネットを悪用した人権侵害が多発しており、小中学校と

連携して人権教育講演会を開催し、人権尊重のための教育を推進する。

- (4) 子どもの人権作文、絵画等を活用して、市民への人権啓発を行う。
- (5) 「男女共同参画プラン」を実践するため、セミナーや各種講演会等を通して、男女共同参画の意識の啓発を行う。
- (6) 広域隣保活動事業として、福祉の向上と人権意識の高揚を図るため、各種セミナー等を推進する。

4 生涯学習課

生涯学習や市民スポーツ等を通じて学習や体験をする機会を提供し、多様な生きがいを育み、そして市民が有意義で活力に満ちた人生を送れるよう支援する。

- (1) 青少年の健全育成：地域・家庭・学術施設等とも連携して子ども達に製作活動や野外活動、そして伝統文化などを学習・体験できる場と機会を提供するとともに、青少年の健全育成関係団体の育成・支援を行う。
- (2) 生きがいづくり：各年代に応じた多種にわたる学習の場と機会を創出・提供し、生きがいを育むとともに、成人の社会教育関係団体を育成・支援を行う。
- (3) 芸術・文化の振興および実施：市民が文化・芸術に触れる機会を数多く設け、市の文化振興に努めるとともに、各種の文化・芸術団体を支援する。
- (4) 文化財保護の推進と活用：市内の貴重な文化財を保護するとともに伝承・活用に努め、地域と連携して後継者の育成を図る。
- (5) 生涯スポーツの普及と振興：体力・年齢に応じたスポーツの場と機会を数多く提供し、スポーツ振興や健康増進に努め、地域コミュニティ、生きがいを育むとともに、市のスポーツ振興に寄与する団体の育成・支援を行う。
- (6) 施設の管理・運営：市民が便利で快適に利用できるよう、適切な管理・運営を行う。

5 図書館

- (1) 活字文化を通して、こころ豊かで自発的なまちづくりに役立つよう、市民の読書環境を整える。
- (2) 図書館の使命である貸出を中心とした資料提供の充実を図り、市民の暮らしを高めるサービスを行う。
- (3) 次世代の子どもたちが本と触れ合える機会を提供する。

■ 評価基準（自己評価）

教育委員会評価は、担当課で参加者の声、アンケート結果、計画者の意図、満足度等をもとに自己評価（内部評価）とした。

評価表には、事業内容のねらい、成果と課題を明確にした。

なお、評価基準は、次のようにアルファベットをもって評価した。

A, a 大変よかった。（目的が達成できた）

B, bよかった。(目的が概ね達成できた)

C, c余りよくなかった。(目的が余り達成できなかった)

D, d大変よくなかった。(目的が達成できなかった)

3 平成26年度主要事業の点検と評価

学校教育課

項目	総合評価	
	25年度	26年度
確かな学力の定着	A	A

●ねらい

1. 個を生かす学習指導の充実
2. 読書活動の充実
3. 理数教育の充実
4. 情報教育(ICT教育)の推進
5. 国際化に対応した教育の推進
6. 特別支援教育の充実
7. 幼保小中連携の推進
8. 就学前教育(幼稚園教育)の充実

●取り組み・経過

1.	学力向上プロジェクト委員会による指導実践事例集の作成、兵教大と連携した学習チューターによる学習補助、新学習システムの推進による児童生徒のきめ細かな指導、さらに自主学習の場として小学校6校と全中学校において「加東スタディライフ」を実施し、学習指導の充実を図った。また、各学校において結果の分析を行い、昨年度の取組に対する成果と、今後の課題を明確にした。
2.	子どもたちに読書習慣を身に付けさせるため、学習タイムを活用した「朝の読書」の実施し、また、社会科や総合的な学習の時間における職業調べや福祉学習等において調べ学習の情報収集の場として図書館の活用を推進した。さらに教室の本の整備、図書館機能の充実、及び読み聞かせの充実を図った。
3.	理科及び算数・数学科において、小学校高学年における新学習システム(兵庫型教科担任制)を活用した教科担任制の導入や、小中学校における少人数指導を行った。
4.	福田小学校と社中学校の2校をICT教育研究推進事業実践校に指定するとともに、ICT機器を授業のどの場面で、どのメディアを、どのような意図で活用したかを検証することで、具体的な指導方法について実践的な研修を深めた。
5.	小学校、中学校に外国語指導助手(ALT)の派遣を行い、教員との役割を明確にして外国語活動や英語科の授業を行った。
6.	市福祉部局、市民安全部局との連携により特別な配慮を要する子どもの支援体制を確立した。また、特別支援教育コーディネーターを対象とする研修を行った。
7.	特別な配慮を要する保育園・幼稚園の年長児を支援するために、幼保小発達支援連絡会を開催した。小中連携では、授業交流、児童生徒交流など、中学校区ごとに主体的な実践研究、合同での学校行事を実施した。
8.	幼稚園では、専門性を生かし、子育てに関する情報を提供したり、保護者からの子育てに対する相談に応じたりした。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	個を生かす学習指導の充実	a	a
<p>小中連携による授業公開を通して、相互に研究を深め、指導方法の工夫・改善を図ることができた。また、市内学校園に63名の学習チューターを配置することで、学習上のつまずきの解消や学習意欲を向上させることができた。さらに、「兵庫型教科担任制」等の新学習システムを推進し、教員の専門性を生かした教材開発や指導方法の工夫改善を図ることができた。長期休業中には、「加東スタディライフ」を小学校6校と全中学校で実施し、児童生徒の自主学習の場を提供した。学力・学習状況調査結果の活用については、各校で結果の分析を行い、昨年度の取組に対する成果と、今後の課題を明確にすることができた。</p> <p>関連事業 学力向上プロジェクト委員会、学習チューター、新学習システム、加東スタディライフ</p>			
2.	読書指導の充実	b	b
<p>学習タイムを活用した「朝の読書」を実施したり、社会科や総合的な学習における職業調べや福祉学習等の調べ学習の場として図書館の活用機会が増えた。また、教室や図書館に話題性が高く、児童生徒の興味関心にあつた蔵書を充実させたり、「読み聞かせ」等地域ボランティアとの連携を深めるなど図書館機能の充実を図った。そのため、教科指導や児童生徒の日常的な読書活動の場として図書館を利用する機会が増えており、児童生徒の読書活動の習慣化を推進することができた。</p> <p>関連事業 子どもの読書活動推進事業</p>			
3.	理数教育の充実	b	b
<p>理数科を中心として教科担任制や少人数指導など兵庫型教科担任制が全ての小中学校で実施されて2年が経過し、指導内容の充実を図ってきたところである。また、小学校で実施された「加東スタディライフ」では、約51%の児童が昨年に引き続いて今年も参加するなど、学習意欲が向上してきている。今後は、教職員の組織的・協同的な指導を心掛けることで、学習理解の深化を一層図る必要がある。</p> <p>新学習システム(小学校における教科担任制や少人数指導)</p>			

4.	情報教育(ICT教育)の推進		
デジタル教科書、電子黒板、及びプロジェクター等のICT機器を有効に活用した国語科、算数・数学科、理科及び社会科の指導案を小中連携のもと作成し、授業公開や研究協議を行い、指導実践事例集にまとめることができた。また、福田小学校と中学校をICT教育研究推進事業実践校に指定して公開研究会を実施し、ICTを効果的に活用した授業実践を市内教職員に広めることができた。		a	a
関連事業		デジタル教科書、電子黒板等の活用、加東市教育研究所員会(ICT教育)、ICT教育研究推進事業	
5.	国際化に対応した教育の推進		
小学校では、ALTが発する英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだり、外国の文化・遊びを知ったりして、児童が意欲的に外国語活動の学習に取り組むことができた。中学校では、ALTが話す基本的な英語の音声の特徴をとらえ、生徒がその特徴を用いて進んで発音することができた。中学校のALTについては、3名全員を直接雇用の配置とすることができた。生徒は、年間を通じて同一のALTから継続した指導を受けることができた。		a	a
関連事業		語学(英語)指導員派遣事業	
6.	特別支援教育の充実		
文科省インクルーシブ教育構築モデル事業を委託され、合理的配慮協力員を1名増員し、3名での活躍のもと、交流及び共同学習の研究が進んだ。これまで、各校が行ってきた特別な配慮について合理的配慮として整理することができた。また、個別のケース会議を中心に、市福祉部局、市民安全部局との連携を深め、特別な配慮を要する子どもへの支援を進めることができた。個別の指導計画の作成や保護者対応などの研修を行い、特別支援教育コーディネーターの力量を高めるため、研修会を実施した。アシスタントや介助員の研修会も実施し、全ての教職員の専門性の向上に繋がった。		a	a
関連事業		サポートファイル、特別支援教育コーディネーターネットワーク会議、スクール・キッズアシスタント、適正就学指導委員会	
7.	幼保小中連携の推進		
幼保小発達支援連絡会では、子育て支援課との連携を密にし、市内保育園・幼稚園の特別なニーズを持つ年長児に対する支援の充実を図ることができた。昨年度から開催時期を4ヶ月早め、翌々年度の小学校入学児を対象としたことで、幼保小の連携が一層深められた。小中連携による他校児童との交流により、共に学び合う楽しさを味わわせ、中学校入学に向けた不安感を和らげる一助となった。また、小中連携による授業交流において、小学校教員のきめ細やかな指導と中学校教員の専門性の高い指導など、互いの良さを認識し授業改善に役立てることができた。		a	a
関連事業		幼保小発達支援連絡会、小中連携による児童交流	
8.	就学前教育(幼稚園教育)の充実		
開かれた園づくりをめざして幼稚園オープンを実施し、保護者や地域の人々に子どもの様子等を見ていただき、幼稚園教育への理解を深めることができた。さらに、ホームページや園だより等で公開する中で、地域全体として子どもの成長を支える環境づくりを推進することができた。表現活動や言葉での関わりを充実させ、子ども達の成長に繋がっている。		a	a
関連事業		幼稚園オープン	

●今後の課題(反省点)

1.	学力向上プロジェクト委員会において、全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、学習指導の工夫・改善について研究を行い、市内教職員に広める。また、新学習システムによるきめ細やかな学習指導を推進するとともに、長期休業中の「加東スタディライフ」を全小中学校で実施し、児童生徒の学習意欲の向上を図る。
2.	図書室を活用した調べ学習や「学習タイム」を活用した「朝の読書」が学校教育の中で定着してきた中、家庭においても日常的な読書習慣の定着を推進していくことで、知識や考え方を広げる読書活動の一層の充実を図る。
3.	理数学習に対する子どもの関心・意欲をさらに高めるために、校内の指導体制の充実と指導方法の工夫改善を図る。特に、電子黒板やプロジェクター等の機器やデジタル教科書等のコンテンツを有効に活用した授業を行うとともに、教職員が作成したコンテンツやリンク集等を共有化するシステム作りを行う。
4.	ICT教育研究推進事業実践校を中心に研究を継続するとともに、教育委員会の共通フォルダ内にデジタル教材等を蓄積するシステムを充実させ、ICT教育推進のための環境づくりを進める。また、ICT活用に関する最新の情報に注視し、今後のICT機器の整備・活用の方針を探る。
5.	中学校のALTの直接雇用による成果の一方、事故等による突然の辞職等が懸念される。ALTと日本人教員のチームティーチングのあり方をさらに研究する必要がある。
6.	就学指導の在り方を再評価することと、合理的配慮等を提供するプロセスを確立することを重点課題とし、インクルーシブ教育の充実に努める。
7.	授業体験や部活動見学等小中連携をさらに進め、小中一貫教育の理念を広めていく。また小中連携による児童交流を通して中学校進学への不安を緩和する。さらに幼保連携による園児交流を行い、園児児童の豊かな成長を図る。
8.	幼児期の教育・保育と小学校教育の円滑な接続を一層図るため、幼児と児童の交流や教職員の合同研修を行う。また、3歳児の受け入れについても研修を深める。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
豊かな人間性の育成	A	A

●ねらい

1. 心に響く道徳教育の充実
2. 地域の伝統や文化を大切にす教育の推進
3. 豊かな体験活動の実施

●取り組み・経過

1. 道徳教育推進教師をコーディネーター役として全教職員が協力して道徳教育を展開した。文科省「新しい道徳」の年間指導計画への導入を進めた。
2. 市内の全小学校4年生で「加東遺産めぐりの旅」を実施し、地域住民と連携して、子どもが地域の遺産や文化財に触れる機会を提供した。
3. 小学校3年生の環境体験事業、小学校5年生の自然学校では、地域の自然環境を生かした体験活動を実施した。また、中学校1年生のわくわくオーケストラ教室では豊かな情操を養い、中学校2年生のトライやる・ウィークでは、「加東市トライやる・ウィーク推進協議会」や各中学校「トライやる・ウィーク推進委員会」を組織し、地域・保護者と連携して生きる力の育成を図った。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	心に響く道徳教育の充実	a	a
<p>学校オープン等を利用して、全小中学校で道徳の授業公開が行われ、家庭や地域の人々の理解を得ながら道徳教育を推進することができた。兵庫版道徳教育副読本と文科省「新しい道徳」を年間指導計画に位置づけると共に、各学校において、道徳教育の推進体制の一層の充実に向け、「全体計画」と「年間指導計画」を作成することができた。とりわけ、指導案やその資料を保存しながら、指導内容や指導方法を工夫する取組を継続することで、授業を充実させることができた。</p> <p>関連事業 道徳教育推進拠点校事業</p>			
2.	地域の伝統や文化を大切にす教育の推進	b	a
<p>「加東遺産めぐりの旅」では、地域の識者から現地で直接説明を受ける機会を設けるなど「加東遺産」に対する子どもの意識を高めるなど工夫が見られ、自分たちも「加東市」の伝統や文化を受け継いでいく一人であるという自覚を持たせることができた。また、社会科の授業では、地域教材「わたしたちの加東」(小学校)、「わたしたちのふるさと加東市」(中学校)を活用し、子どもの歴史、伝統、文化に対する関心や理解を深めることができた。</p> <p>関連事業 小学校「加東遺産」めぐりの旅、地域教材「私たちの加東」(小学校)、「わたしたちのふるさと加東市」(中学校)</p>			
3.	豊かな体験活動の実施	a	a
<p>環境体験事業は、総合的な学習の時間や理科の時間を中心に実施し、命の大切さ、命のつながり等を実感させることができた。自然学校は、海での活動を通して、自然への畏敬の念や他者を思いやる心を醸成することができた。また、中学校「わくわくオーケストラ教室」は、本格的なオーケストラの生演奏を聴くなど、豊かな情操や感性を身に付けることができた。トライやる・ウィークは、「加東市トライやる・ウィーク推進協議会」や各中学校「トライやる・ウィーク推進委員会」が中心となり、学校・保護者・事業所等の連携が強化された。そして、生徒は地域の事業所等での活動を通して、地域の人々の暮らしを支える仕事や地域とのつながり、学ぶことや働くことの意義について考える機会になり、ふるさとへの意識を高め、また、これまでの生活を見直し、将来を考える機会になった。</p> <p>関連事業 環境体験事業、自然学校、わくわくオーケストラ教室、トライやる・ウィーク</p>			

●今後の課題(反省点)

1.	道徳教育の充実のためには、学校と家庭地域が一体となって児童生徒に向き合うことが必要である。そのためには、兵庫版道徳教育副読本や文科省「新しい道徳」の活用する場の拡大に向けて、具体的な連携方策を工夫する必要がある。
2.	中学校社会科地域教材「わたしたちのふるさと加東市」の改訂作業に着手するなど加東市の伝統や文化に関する教材を開発するとともに、既存の教材の定期的な改編を進める。「加東遺産めぐりの旅」については、子どもが地域の特徴や良さについて知ることで、地域を愛し、伝統文化を継承・発展させようとする意欲を一層育てる。
3.	環境体験事業は、活動をマンネリ化させることなく、児童の実態や地域の実情に応じて活動内容を工夫する必要がある。「トライやる・ウィーク」についても、事業自体が定着しスムーズに実施されている中で「マンネリ化」という指摘があり、活動が行事化するなど、生徒の希望に応じた受け入れ先の確保が難しくなっている。子どもたちにとっては、それぞれ初めての体験活動であり、「加東市トライやる・ウィーク推進協議会」や各中学校「トライやる・ウィーク推進委員会」が中心となり学校、家庭、地域の連携を一層進めていくことが重要である。

項 目	総合評価	
	25年度	26年度
健康体力づくり	A	A

●ねらい

1. 体力運動能力の向上
2. 食育・健康教育の推進

●取り組み・経過

<p>子どもの体力・運動能力の向上を図るために、系統的・計画的な体育・保健体育の授業を展開し、授業交流における小中連携を推進した。また、県教委の「いきいき運動部活動支援事業」や、市の「運動部活動外部指導者派遣事業」により、専門性の高い地域指導者を活用し、運動部活動の安全性と技術指導の向上を図った。</p> <p>2. 子どもの望ましい食習慣の形成を図るため、研究指定校を2校定め食育の推進に努めた。</p>
--

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	体力運動能力の向上	b	b
	<p>授業交流を通して、小中連携の活性化を図ることができた。県教育委員会の「体力アップひょうごサポート事業」を活用し、高等学校教員からアドバイスを受け、小学校の「器械運動」について、安全性を確保した上で、子どもの体力・運動能力を高めるためのテクニカルポイントについて、市内小学校教職員を対象とした授業公開を数回実施しましたが、目標としていた教員の授業改善にまでは及ばなかった。運動部活動外部指導者派遣事業では、専門的的確な技術指導により、安全性と活動意欲を高め、生徒の技術面や体力の向上を図ることができた。</p>		
関連事業	運動部活動外部指導者派遣事業、新体力テストの計画的実施(小・中学校)、小学校水泳交歓会、中学校新人体育大会・総合体育大会		
2.	食育・健康教育の推進	a	a
	<p>食育推進指定校では、栄養教諭や栄養士を有効に活用し、地域の人や食材、食文化を体験的に学ぶ食育を進めることができた。健康診断の実施状況を再評価し、適正化を図ることができた。</p>		
関連事業	学校保健会、食育推進事業、食育推進委員会		

●今後の課題(反省点)

<p>中学校の部活動では、教員の世代交代や専門性の有無等部活動顧問を巡る課題は依然として大きい。そのため、指導技術や教育的意義等を若い教員に伝えていく必要がある。生徒の多様なニーズに応えられない状況や安全性を確保できない状況が懸念されるため、引き続き外部指導者の活用等その対応が求められる。</p> <p>2. 食育推進指定校以外の学校でも、栄養教諭等を活用した授業を積極的に行うこと、また、学校オープン等で地域や保護者への啓発を図りたい。地域の食材と人が活躍する取組を一層広げる。</p>

項目	総合評価	
	25年度	26年度
安全・安心で信頼される学校づくり	A	A

●ねらい

1. 不登校・いじめ等に対応する体制の整備
2. 子どもたちが安心して学べる環境づくり
3. 開かれた学校づくり
4. 教職員の実践的指導力の向上

●取り組み・経過

1. 不登校やいじめの早期発見・早期対応等、従来の観察法や面接法に加え、質問紙法により児童生徒の内面を理解した支援ができる校内体制の充実に努めた。 また、「加東市いじめ防止基本方針」や各学校で「学校いじめ防止基本方針」を策定した。
2. 学校と地域や関係機関が相互に連携を図り、防災訓練の実施やそれに向けた連絡会議を開催した。また、学校における防犯教室・防犯訓練の計画的な実施、「子ども見守り隊」との連携及び通学路の点検や巡回パトロールを強化し、安全安心な環境づくりに努めた。
3. 教育活動等の情報の積極的な提供や、学校評価の結果の公表、保護者・地域の人々と連携した教育活動の展開等を推進した。
4. 小中学校の今日的な課題に対応できる教員の育成を図った。とりわけ夏季研修では、市内全教職員が一同に会し、本市の喫緊の課題である「児童生徒理解」に焦点を当てた研修を実施した。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	不登校・いじめ等に対応する体制の整備	b	a
<p>不登校については、年3回小中が連携する「不登校対策委員会」を開催し、不登校生の内面理解と対応について理解を深め、関係機関と連携して細やかなかわりや粘り強い支援を続けた。また、いじめについては、「加東市いじめ防止基本方針」や各学校で「学校いじめ防止基本方針」を策定し、各学校「いじめ防止チーム」が中心となって、組織的な取り組みを推進した。さらに、hyper-QUとQUを小学校4年生以上のすべての児童生徒にそれぞれ年1回ずつ実施し、児童生徒の内面理解を進め、不登校やいじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた。加東市ネット見守り隊では、PTAをはじめ市内小中高が連携した取組に加えて、北播磨地域の教育委員会事務局職員の連絡会を開催するなど、子どもたちの発達の段階に応じたインターネット上のルールマナーを広範囲で守る指導を積極的に行うことができた。</p> <p>関連事業 学級集団アセスメント事業、不登校対策委員会、児童・生徒のいじめに関する実態把握調査、加東市ネット見守り隊</p>			
2.	子どもたちが安心して学べる環境づくり	a	a
<p>学校ごとに防災教育副読本「明日に生きる」等を活用した防災教育や家庭や地域と連携した防災訓練を実施し、命の尊さや助け合いの大切さを子どもたちに考えさせることができた。また、年間計画に基づいて、不審者対応のため防犯教室・防犯訓練を社警と連携して実施し、児童・生徒及び教職員の防犯意識やスキルの向上を図ることができた。さらに、地域の「子ども見守り隊」による登下校の見守り活動及び青パトによる定期及び随時の通学路の点検やパトロール活動により、登下校の安全に寄与できた。</p> <p>関連事業 防災教育推進連絡会議、子ども見守り隊、防犯教室、北播磨地区ネット見守り隊連絡会</p>			
3.	開かれた学校づくり	b	b
<p>ホームページの定期的な更新や学校だよりの発行、学校評議員制度等を活用して、学校運営に関する情報発信を行うことができた。また、オープンスクールによる保護者や地域の人々への教育活動の公開を積極的に行うとともに、保護者や地域の人々の教育活動への積極的な参画を促進することができた。また、学校自己評価や学校関係者評価の公表を通して、実効性のある学校評価にすることができた。</p> <p>関連事業 学校評議員会</p>			
4.	教職員の実践的指導力の向上	a	a
<p>学校経営研究実践校に2校、ICT教育研究推進事業実践校に2校を指定してそれぞれの学校の課題に基づいた研究を行い、その成果を研究冊子や授業公開を通して市内全域に発信することができた。また、教職員の資質と実践的な指導力の向上をめざして、夏季研修会やテーマ別研修を実施し、今日的課題に対して正面から取り組むことができた。</p> <p>関連事業 教職員夏季研修、テーマ別研修、学校経営研究発表会(市指定教育研究事業)、児童生徒の考える力を高める授業実践事業、教員研修派遣事業、ICT教育研究推進事業</p>			

●今後の課題(反省点)

1.	不登校やいじめ問題に対しては、未然防止や、早期対応・早期解決が重要である。スクールカウンセラーや臨床心理士を有効に活用した教育相談体制を充実させたい。また、hyper-QUアンケートの結果の効果的な活用(分析と具体的対策)、いじめの実態把握調査等今後も児童・生徒の実態把握に努める。
2.	震災20周年を踏まえ、防災教育副読本「明日に生きる」を積極的に活用していく。また児童生徒が適切な判断、行動がとれるよう多様な被災場面を想定した防災訓練を実施するなど、各校の実態に応じたより実践的な訓練を工夫する。
3.	学校・家庭・地域がより一層密接に連携するためにも、学校からの情報発信に努める。学校ホームページは定期的かつタイムリーな情報発信が必要である。
4.	教職員の資質や実践的な指導力の向上のために、各学校の課題解決のための講師招聘や先進校視察の予算補助を積極的に行う。また、教育委員会の共有フォルダ内に指導案や教材等を蓄積し、研究を共有・深化させる仕組みを充実させる。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
青少年の健全育成	A	A

●ねらい

1. 地域社会とともに
2. 豊かな体験活動
3. 家庭教育の重要性

●取り組み・経過

1. 青少年の健全育成を図りつつ、地域との関りを深め、地域と一体となって事業を展開する。
2. 多種多様な体験活動の機会を設け、子ども達に提供する。
3. 家庭教育の重要性を啓発・学習する機会を設ける。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	地域社会とともに	a	a
	子ども達に、加東市で生まれ育つ喜びを友や家族、また地域の人達と共に味わい、郷土愛を高め、また地域の歴史や伝統を次代へとつないでいくことの大切さを学ぶ機会として、あつたか加東伝の助かるた大会や地域子ども教室、また新成人の集いなどの事業を実施した。 特に、地域子ども教室は、地域の人たちや異年齢の子ども達と一緒に活動することで、人間関係や上下関係、規律、道徳心等を理解し、仲間づくりの術を学べる良い機会となっている。 また、加東市子ども会育成連絡協議会、市内2つのボーイスカウト団体とも、市と連携し、地域の中で子ども達を育てていただいている。		
	関連事業	ひょうご放課後プラン(子ども教室)事業、あつたか加東伝の助かるた大会、成人式事業、青少年育成団体活動支援事業(市子連協・ボーイスカウト) *市子連協:書初め大会、夏休み体験教室、ドッジボール大会、サッカー大会などを開催	
2.	豊かな体験活動	a	a
	加東市に育つ多くの子ども達に、「小学生チャレンジスクール」や「加東市ノーベル大賞」等の事業を通じて、体験活動や学習機会を提供することができた。 小学生チャレンジスクールでは、夏休み等の長期休業中や週末を利用し、キャンプやスキー等の野外活動、木工や陶芸等の製作活動、茶道や生花等の伝統文化活動など、17事業28教室を開催している。 また、「県立人と自然の博物館」の協力をいただき6回目を迎えた「加東市ノーベル大賞」では、子ども達が地域の自然や環境観察を行うことで、故郷への思いや自然・環境の大切さを学ぶ良い機会となったことがうかがえる研究成果が多数発表された。		
	関連事業	小学生チャレンジスクール事業、加東市ノーベル大賞	
3.	家庭教育の重要性	b	b
	PTA活動を通して、親学習・家庭教育の啓発が図ることができた。 「みんなの食育アカデミー 子どもの食と栄養について」兵庫県栄養士会 栄養ケア・ステーション 大隅 昌美氏 「自信とやる気を引き出すプラスの問いかけ」家庭教師システム学院 代表 長谷川 満氏		
	関連事業	親子活動、親学習	

●今後の課題(反省点)

1.	子ども教室は、参加者の増員、アフタースクールとの連携等、それぞれに取り組みを行い参加者を増やしてきた。しかし、今年度は会場の変更(耐震工事)等が生じたことが参加者が減少した要因と思われる。また、同時、同場所開催のアフタースクールとの相互交流が行えなかったこと、会場移動の距離、時間がかかったことも要因と考える。今後も、子ども達の増員、指導者、アドバイザーの人員の確保に努めると共に、公共施設適正化計画並びに小中一貫校の方向性を注視しながら、新たな教室のあり方等、実行委員会で深く検討する必要がある。
2.	各学習活動では、多くの子どもたちが笑顔を、思い出を持ち帰った。ただ、けが等の事象も起こってしまった。公民館総合保障制度で対応し、保護者にも理解を得たが、より安全、安心な事業を徹底したい。
3.	PTAと協調して事業を実施している。親学習・家庭教育の充実に向けた研修に努めているが、これからも計画的に、かつニーズに応じた研修を行っていきたい。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
生きがいきづくり	B	B

●ねらい

1. 各年代に応じた学習
2. 団体活動支援

●取り組み・経過

1. 市民(成人)の誰もが生涯学習に参加できるよう、各世代向けの講座開設や、多様なジャンルのサークルを公民館等の登録サークルとして組み込み、市民に提供している。
2. 成人を対象とした社会教育等団体である市連合婦人会、市連合PTAに対し、適切な支援を行っている。

●ねらいに対する成果と評価		25年度	26年度
1.	各年代に応じた学習 高齢者大学、文学講座、加東遺産講座の3講座の実施に加え、本年度より新たに成人学習講座を実施できた。主に、公民館に来ることが少ない青年層や壮年世代を対象とした講座を開設したことで、成人向け、高齢者向けと各年齢層に対する学習機会を提供できた。 *子ども達には、青少年健全育成事業で対応できた。 また、日々、文化・芸術・芸能などの分野で、自己の研鑽や生きがいきづくり、コミュニティの増進等を目的とするサークル活動を支援し、多種・多様な市民のニーズに応えられる生涯学習の受け皿として、十分な環境を整えてきている。 なお、平成26年度の登録サークル数(平成27年1月末現在)は、滝野公民館24、社公民館23、東条公民館15、さんあいセンター35、明治館9、コミュニティセンター東条会館14の計120団体である。	b	a
関連事業	高齢者大学、成人学習講座、各公民館定期登録団体・サークル活動支援		
2.	社会教育等団体の育成・活動支援 市連合婦人会、市連合PTAの団体や活動がより活発化するよう、自主性を重んじながら、各団体の設立趣旨も確認しつつ社会教育上の支援を行った。両団体とも、自らの団体の役割を十分に認識され、市や地域の事業にも積極的に参画され、その存在感が示されている。	b	b
関連事業	連合婦人会・連合PTAへの支援		

●今後の課題(反省点)

1. 成人対象事業への参加者は、どうしても高齢者に偏ってしまう。これは、社会構造上やむを得ない部分でもあるが、好評であった26年度に引続き、27年度もチャレンジの精神で、人を引き付ける魅力ある新たな成人向け講座を開設していきたい。
2. 社会教育団体の存続・活性化が難しい状況が続く。地域の人間関係が薄れ、個人主張が強くなった現在、団体行動を行うことは難しい。特に、自分のためでなく、人のため、地域のためといった行動がとれる団体の育成は、社会教育上大切なことだと認識し、粘り強く、継続して支援していきたい。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
芸術・文化活動の振興および実施	A	A

●ねらい

1. 芸術・文化の振興
2. 芸術・文化団体の支援

●取り組み・経過

1. 多くのイベントを通じて、市の芸術・文化の振興に努めた。
2. 市の事業との相乗効果を狙い、市の芸術・文化の振興に寄与している団体を支援した。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	芸術・文化の振興	a	a
<p>市公募美術展、市文化祭、ギャラリー収蔵品展「門脇正弘遺作展」、加東文化振興財団による各種文化芸能事業等を実施することにより、市の文化振興を図った。特に、市文化祭は新庁舎完成に伴い、市秋のフェスティバルと同日、同会場で実施したことにより、集客の増につながり、文化薫るイベントとして開催できたことで、「文化のまち！加東」を示すことができた。</p> <p>また、新庁舎完成による、加東市に関わる芸術家や関係者から多くの作品を寄贈していただいた。細川勝氏(社地区出身)、故門脇正弘氏(家原地区出身)、故芹生芳郎氏(上滝野地区出身)の作品を新庁舎に飾るなど、多くの市民に見ていただける機会を設けることで、寄贈者の想いにも応えることができた。</p>			
関連事業	市公募美術展事業、市文化祭事業、加東文化振興財団文化事業		
2.	芸術・文化団体の支援	b	a
<p>市文化連盟、市美術協会、また公民館やコミュニティセンターを使用される文化団体の支援を行った。</p> <p>公民館やコミュニティセンターを使用される文化団体には、施設使用に関する説明会や日程調整等も行い、スムーズに、快適に使用できる環境提供に努めたほか、新たな団体発足に向けた相談等にも適切に対応するなど、市民が望む文化・芸術活動の支え役としての役割も果たしてきた。</p> <p>市文化連盟は、人的支援などの市の補助が必要であるが、「市文化連盟祭」や「市文化連盟一部会発表会」(9部会)を実施されたほか、後継者の育成や青少年の健全育成を願った「市子ども絵画公募展」、また、福祉施設等への慰問活動、地区行事への支援活動などを積極的に展開され、地域の文化団体として大きく貢献されている。また、市美術協会においても「市美術協会展」や研修会の開催のほか、市文化連盟主催の「市子ども絵画公募展」の支援をされるなど、市文化連盟と協調したなかでの地域貢献活動も図られている。</p>			
関連事業	芸術・文化団体の育成・活動支援(市文化連盟、市美術協会)		

●今後の課題(反省点)

1.	27年度の市文化祭、市文化連盟祭の開催は、26年度に方針が決定し2会場での実施となったが、二つの文化祭を受け持つ当課では、効果的に、かつ合理的に実施できるよう、文化連盟、秋のフェスティバル実行委員会と十分に調整していかなければならない。
2.	団体の方が、自分たちの団体、活動だと言う意識を強く持って活動ができていくよう、引き続き指導していかなければならない。会員の中にはその意識を十分に持ち、仲間を引っ張っていきこうとされる人もいるが、今後も継続した指導助言を行い、後継者の育成に努めたい。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
文化財保護の推進と活用	A	A

●ねらい

1. 文化財の保護・発掘及び活用

●取り組み・経過

1. 年間を通じて文化財の保護、発掘、活用に努めた。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	文化財の保護・発掘及び活用		
<p>文化財保護対策事業では、指定文化財修理補助事業(2件)、防火設備管理事業(4件)、無形民俗文化財の後継者育成事業(4件)、路傍にある道標の再建事業(5件)を実施したほか、市内に点在する指定文化財の紹介看板を設置・改修し、文化財の保護とともに、その意識を高める広報・啓発活動にも努めた。</p> <p>埋蔵文化財事業では、開発事業に伴う本発掘調査(1件)、試掘調査(3件)、立会調査(15件)、開発照会事務(200件)等を行った。</p> <p>加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷では、常設展示の公開・運営はもとより、中古瀬薬師堂の仏像群を展示の中心として、民俗資料館事業の特別展「加東の仏像」および講演会を開催し、多くの人たちに紹介することができた。また、民俗資料館の館蔵資料の整理は順次努めているほか、その活用(貸出6件)にも努めた。</p>		a	a
関連事業	文化財保護対策事業、埋蔵文化財調査事業、歴史民俗資料館事業、三草藩武家屋敷管理事業		

●今後の課題(反省点)

<p>歴史民俗資料館の倉庫は満杯のうえ、地域等からの資料寄託の申し出を躊躇せざる得ないのが実情である。埋蔵文化財の出土遺物については、平成26年度、旧滝野庁舎書庫やピロティを一時的な保管場所として活用することになった。また、武道館下に保存している出土遺物については、平成27年度に旧滝野庁舎へ仮保存することで、これらの一元的な管理が可能となった。ただ、こうした出土遺物や民俗資料館の資料を利用・活用することが不可欠である。そのためにも、文化財の適正な長期保護の観点から、空調等が完備され、かつ展示して広く公開することが可能となる施設を検討していかなければならない。</p>
<p>平成27年度に歴史民俗資料館の耐震診断設計業務を実施し、この結果を判断基準として、公共施設の適正化計画と整合性を図りながら耐震工事並びに施設運営を検討していく。</p>

項目	総合評価	
	25年度	26年度
生涯スポーツの普及と振興	A	A

●ねらい

1. 生涯スポーツの振興とコミュニティづくり
2. スポーツ団体支援

●取り組み・経過

1. 市民がいつでも、どこでも、気軽に生涯スポーツに取り組める、また触れることができるよう、多くのスポーツイベントを催し、多種のスポーツサークルを育み、かつ施設の提供に努めてきた。
2. 自主運営を基本とする各スポーツ団体の健全な運営を支援し、市民自らが自発的にスポーツに取り組もうとする意欲が沸き立つよう押し進めている。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	生涯スポーツの振興とコミュニティづくり		
	生涯スポーツを通じて、市民の健康保持・増進、地域コミュニティの育成につなげていこうと多くの事業を実施した。「地区親善ソフトボール大会」、「地区親善バレーボール大会」、「三世代ゲートボール大会」、「ベタンク大会」、「グラウンドゴルフ大会」、「卓球大会」、「パークゴルフ大会」、「伝の助マラソン大会」、「市民ハイキング」を開催した。 また、「加東市伝の助マラソン大会」の会場を県立播磨中央公園に移して実施2年目となり安心・安全なスポーツイベントとして確立できたが、エントリー数は、約2,033人と昨年を下回ったが、親子ペア部門は650人と昨年より26人増となり、市民に親しまれる大会となってきた。 各種目とも多くの市民の参加が得られ、それぞれに成果を得た。また、各大会開催には、市体育協会(各種目協会含む)、市スポーツ推進員等の協力も得られ、市民の手による市民のための大会が開催できてきた。	a	a
関連事業	地区親善ソフトボール大会、ふれあい球技大会(地区親善バレーボール大会、ベタンク大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会、三世代ゲートボール大会、パークゴルフ大会)、伝の助マラソン大会、市民ハイキング		
2.	スポーツ団体支援		
	市が行っているスポーツ団体支援は、大きく分けて3つ。①施設利用における支援。②活動補助。③活躍するスポーツ団体及び市民アスリートに対する支援がある。 ①は、市民の自主的なスポーツサークル活動を支援することで、市民の健康増進はもとより、市のスポーツの振興や市民のスポーツニーズの受け皿になっていただけるように支援を行っている。現在、市体育協会加盟団体は16協会(連盟)173団体、スポーツ少年団8種目26団体、その他市内のスポーツサークルは63団体(体育協会加盟団体と一部に重複あり)等があり、その全ての団体に、優先的な体育施設の使用予約、使用料金の減免などの優遇措置を図りつつ、活動の支援を行っている。 ②については、市民のスポーツ活動の推進・振興体系の中核を担っている市体育協会に補助し、活動の支援を行っている。同協会内には、16の種目協会があり、その協会ごとに各スポーツ団体が加入している。助成や支援も、その流れに沿って行っている。 ③は市内のスポーツ団体や市民アスリートの活躍に対し、競技レベルや意識の向上に、また荣誉と誇りを市民共々が共有できるように「スポーツ賞」や「スポーツ賞賜金」を、市民アスリートに贈っている。なお、現在のスポーツ事情に適切に対応し、市民に対し公明なものとするため、加東市代表選手賞賜金支給要綱及び加東市体育団体活動補助金交付要綱を改正した。 今年度も上記3つの支援を適切に実施し、市のスポーツ振興を図った。	a	a
関連事業	体育協会補助金・スポーツ賞制度・代表選手賞賜金制度・体育施設維持管理事業		

●今後の課題(反省点)

1.	体育事業は、その事業性からケガを伴う事故が発生することもあり、各事業の内容、会場等を精査し、少しでも安全なイベントにしていくことも大切である。イベントの大小に関わらずスポーツ保険の加入はもちろん、救護人員の配置、AEDや救急セットも常備するなど体制を整えるように努める。H27年度は、14施設すべてにAEDの設置と滝野総合公園体育館の吊り天井耐震設計業務を行い安全・安心な施設管理に努める。
2.	現在も、体育協会等に加入する団体には、伝の助マラソン大会をはじめ、市の各スポーツイベントにおいてそれぞれに指導的役割も担っていただくなど、協力を得ている。しかし、市が体育協会や各種スポーツ団体に支援する上記のような意味や意義が、それら団体の末端加入者、そして一般の市民にはあまり伝わっていない部分もあるように思える。 市の支援を受けるスポーツ団体は現の加入者のためだけでなく、他の市民もいつでも仲間として受け入れられるという姿勢であるように、また、市民には市内にこれだけのスポーツ環境が整い、いつでも多種のスポーツに参加できる体制が整っていることを広く知らしめていかなければいけないと考えている。
3.	公共施設の適正化計画で廃止となる施設が決定するに伴い、現在の定期利用団体との調整等を、密に行い年間使用計画に支障が生じないように調整を図っていく必要がある。 また、施設利用者の混乱を避けるため、体育協会をはじめ、各種団体等に周知を図っていく必要がある。

生涯学習課

項目	総合評価	
	25年度	26年度
施設の管理・運営	A	A

●ねらい

1. 社会教育・体育関係施設の管理・運営

●取り組み・経過

1. 市民誰もが便利で快適に利用できるよう、適切な管理・運営を図った。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	社会教育・体育関係施設の管理・運営	a	a
<p>3公民館、3コミュニティ施設、1野外活動センター、3文化会館、6体育館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷の管理・運営を行った。それぞれが市民に喜ばれる施設として活用いただけるように適切な運用と、効果的な維持管理を行ってきた。</p> <p>平成26年度の主な工事・修繕等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治館西側の石積復旧工事を実施した。 ・明治館非常放送設備設置及び火災報知設備の移設工事を行った。 ・やしろ国際学習塾のエレベーター劣化部品の交換工事を行った。 ・やしろ国際学習塾の高圧電気設備更新工事を実施した。 ・滝野文化会館・東条文化会館の防犯カメラの設置を行った。 ・夕日ヶ丘公園パークゴルフ場ネットフェンス設置工事を実施した。 <p>また、平成27年度の公共施設適正化計画の方針決定に伴い廃止となる施設については維持費の投資を抑え、存続となった施設については適切な維持管理・運営を行った。</p>			
関連事業	3公民館、3コミュニティ施設、1野外活動センター、3文化会館、6体育館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷 維持管理事業		

●今後の課題(反省点)

<p>施設の維持管理は、順次整備、改修に努め、快適な使用環境の提供に努めている。</p> <p>しかし、特に体育施設は人が配置されていない施設が多いため、不法な進入などにより、便所のドアや壁面を損傷されたり、側溝蓋の盗難や駐車場での車上荒らしもあった。</p> <p>1. 事象ごとには警察にも連絡を入れるなど、事後対応は適切に行ってはいるが、予防には看板等の設置程度しか対応の方法がない。現在もお願いはしているが、利用者との協調をより深め、利用者与管理者で、より安全で、安心できる環境が整えられるようにしていかなければならない。</p>

人権教育課

項目	総合評価	
	25年度	26年度
人権教育・啓発の推進	A	A

●ねらい

1. 人権感覚を培う人権教育・啓発
2. 人権教育の学習資料の提供
3. 各種団体の人権学習への支援
4. 相談支援体制の充実

●取り組み・経過

1. 講演会や人権啓発展、啓発番組等により人権教育・啓発を推進する。
2. 人権啓発情報誌の発行と人権啓発ビデオにより人権教育の学習資料を提供する。
3. 地域でのリーダーを養成するとともに、各地区での住民学習を支援します。また、それぞれの団体の課題に応じた人権学習研修会を支援します。
4. 人権擁護委員の協力を得て、社会福祉協議会と連携した総合相談や、隣保館での相談事業を実施する。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	人権感覚を培う人権教育・啓発		
	<p>・講演会(人権啓発講演会、人権を考える市民のつどい)には多くの参加者を得て、参加者からは概ね好評を得た。</p> <p>・人権教育スキルアップ講座を通じて、人権教育の原点である同和問題についての意識を喚起することができた。</p> <p>・地域に学ぶ体験学習支援事業を通じて、子どもたちの人権意識を高めることができた。</p> <p>・啓発番組「夢きらめいて」では、人権擁護委員や法務局と連携し、人権に関する取組等をお知らせし、啓発することができた。</p> <p>・全部長による「人権施策推進連絡会議」を開催し、全庁的な意識付けができた。また、担当課による会議を開催し各事業の推進状況を確認した。</p> <p>・保育園並びに小中学校生の人権作品の募集により人権意識を高めることができた。また、作品の展示により市民への人権啓発が図られた。</p> <p>・平成24年度から3年間を同和教育の重点年間と位置付け、同和問題に関する人権教育・啓発事業に取り組めた。</p> <p>・平成25年度から小中学校人権教育講演会を開催し、児童生徒の人権教育ができた。また、保護者の参加により課題であった若年層の人権教育・啓発ができた。</p> <p>・広域隣保活動事業では、人権研修会や各種講座を開催し、広域的な人権に関する福祉事業に取り組めた。</p> <p>・人権擁護委員の協力により、街頭啓発活動に取り組めた。</p>	a	a
関連事業	人権啓発講演会、人権を考える市民のつどい、人権教育スキルアップ講座、地域に学ぶ体験学習支援事業、啓発番組「夢きらめいて」制作、人権啓発ポスター・標語の募集、人権共同作品展、小中学校人権教育講演会、広域隣保活動事業、街頭啓発		
2.	人権教育の学習資料の提供		
	<p>・人権啓発情報「夢きらめいて」を発行して、市や、市同教等が実施している取組の紹介や成果、子どもたちから募集した作品の紹介をすることができた。また、「夢きらめいて」を市内の病院並びに薬局の待合室に置き、来場者への啓発につとめた。</p> <p>・ビデオライブラリについては、住民学習などに役立つため、新しい教材の充実につとめるとともに、部差差別事件後の取り組みとして、同和問題をテーマとした啓発ビデオを購入し、教材としての活用が出来た。</p> <p>・平成25年度に作成した同和問題啓発資料「ふるさと」を活用した住民学習や団体別研修を実施することができた。</p> <p>・人権啓発用ビデオ「こころの窓」においても「ふるさと」を解説する「(仮題)「ふるさと」で学ぼう」を制作し、教材とDVDの連携による学習資料の充実が図れた。</p>	a	a
関連事業	人権啓発情報誌「夢きらめいて」の発行、人権啓発用ビデオ「こころの窓」制作、人権ビデオライブラリ、同和教育教材「ふるさと」の活用		
3.	各種団体人権学習への支援		
	<p>・市民人権講座では地域から推薦された受講生を対象に3回の講座を開催し、地域の人権リーダーを育成することができた。</p> <p>・市同教の取組である住民学習は市全域で取り組まれており、人権学習や地区内外の絆を深める活動を通じて、人権文化が定着しつつある。</p> <p>・団体別研修では地域のリーダー的な層に向けての学習を実施し、人権意識を高めることができた。</p> <p>・学校等公開授業を通じて、保育園から高校までの教育者が問題意識を共有できた。</p> <p>・企人協の取組を通じて企業や職場における人権意識を高めることができた。</p>	b	b
関連事業	加東市民人権講座、加東市人権・同和教育研究協議会委託事業(住民学習推進部会:各地区学習会、団体別研修推進部会:連合婦人会・老人クラブ・消防団・市職員、学校教育部会:保育園(所)・幼稚園・小中学校・高校等)、加東市企業人権教育協議会の運営		
4.	相談支援体制の充実		
	<p>・人権擁護委員の協力を得て、社会福祉協議会が実施する総合相談を実施した。</p> <p>・隣保館では毎週水曜日を相談日とし総合相談を実施した。また、隣保館特設人権相談として、人権擁護委員と民生児童委員の協力を得て、総合相談を実施した。</p> <p>・市役所人権教育課においても業務中の総合相談を実施した。</p> <p>・各種相談は市広報誌や隣保館だよりの発行、ケーブルテレビ等により、市民への周知を行った。</p>	b	b
関連事業	人権擁護委員活動、広域隣保活動事業等		

●今後の課題(反省点)

1. 40歳代以下の参加について、工夫と努力が必要である。また、広域隣保活動事業への参加者の増員が必要である。
2. 情報誌は成果を紹介することには役立っているが、その他の広報媒体も使い、教材の有効活用を図る必要がある。
3. 住民学習の参加者の減少や固定化の対策、内容の充実を図る必要がある。
4. 相談員の充実を図る必要がある。また、効果的な市民周知に努める必要がある。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
男女共同参画事業の推進	B	B

●ねらい

1. 人権尊重と男女共同参画の意識づくり
2. あらゆる分野へ参画できる機会づくり
3. 男女がともに豊かに働ける環境づくり
4. だれもが安心して暮らせる地域づくり

●取り組み・経過

1. 啓発活動や情報提供、学習活動を通じて、人権尊重と男女共同参画の意識づくりを図る。
2. 女性各種団体に対して、啓発活動や情報提供、学習活動を通じて、女性の登用を促進する。
3. 男女双方が了解しあって適切な労働条件を整備し、女性の生産や経営における役割を適正に評価する体制づくりを支援する。
4. 男女の生涯にわたる健康づくりを推進するとともに、だれもが安心して暮らせる地域づくりを進めます。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	人権尊重と男女共同参画の意識づくり	b	a
<p>・男女共同参画セミナー「こころがホッとするセミナー～男女が互いを大切にする生き方を求めて～」を実施し、身近なことから男女共同参画について話し合い意識啓発ができた。</p> <p>・DVについて学ぶ機会として高等学校、子育て支援課と協力し「対等な関係を作ろう～デートDVを防止するために～」、市職員研修で「DVとは何か～二次被害の防止と注意すべき対応～」を開催した。自分の周りにあるDVについて学習する機会ができた。</p> <p>・男性向けのセミナーとしては「おじいちゃんおとうさんと一緒にお弁当をつくらう」を開催し、男性の家事や育児などへの参加を促すことができた。</p> <p>・「加東市男女共同参画推進本部」を開催し、全庁的な意識付けができた。また、「男女共同参画推進プロジェクト会議」を開催し、関係課との連携を図ることができた。</p>			
関連事業	男女共同参画セミナー、DVやセクハラ防止のための研修		
2.	あらゆる分野へ参画できる機会づくり	b	b
<p>・各種団体に対して、市が行う各種講演会を案内し概ね講評を得た。</p> <p>・「おじいちゃんおとうさんと一緒にお弁当をつくらう」やPTAと連携した「食育アカデミーと子どもの食と栄養について考える」セミナーを開催し、男性の家事や育児などへの参加を促すことができた。</p> <p>・市人事担当課に対して女性職員の管理職への登用を率先的に行うよう働きかけができた。</p>			
関連事業	女性各種団体への支援、家庭生活における男女共同参画の推進、市役所女性管理職の登用		
3.	男女がともに豊かに働ける環境づくり	/	b
<p>・商工会と連携し、「ワーク・ライフ・バランスで企業の魅力を高める～人材を活かす職場環境づくりのために～」を開催し、ワーク・ライフ・バランスの啓発ができた。</p>			
関連事業	男女共同参画セミナー		
4.	だれもが安心して暮らせる地域づくり	b	b
<p>・広域隣保活動事業として、回想法アフター、コミュニケーション麻雀講座、救急入門!心配蘇生法とAED講座を開催し、だれもが安心して暮らせる地域づくりができた。</p> <p>・生涯学習課と連携し「エンディングノートで考える!充実した人生」を開催し、生涯教育、地域のつながり等についての学習の機会となった。</p> <p>・企業人権教育協議会の職員研修では、健康体操「からだを動かして心をリフレッシュ」並びに講演会「こころの健康とアルコール」を開催し、男女の健康管理や心と体の健康づくりに努めた。</p>			
関連事業	広域隣保活動事業(関係団体や各課と連携)、男女共同参画セミナー、企業人権教育協議会職員研修		

●今後の課題(反省点)

1. 男女共同参画を浸透させる効果的な講演会やセミナーの開催が必要である。また、参加者の増員が必要である。
2. 女性の登用はまだ不十分であり、各種団体への働きかけが必要である。また、そのためのセミナー等の充実が必要である。
3. 仕事、家庭生活、地域活動をバランスよく選択、実現できることが大切である。そのために様々な学習の機会が必要である。
4. 子どもや高齢者、障がい者が安心して暮らせる環境の整備・充実が必要である。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
市立図書館の充実	A	A

●ねらい

1. 資料提供・情報提供の充実
2. 魅力ある蔵書の整備・充実
3. 図書館進展活動の推進

●取り組み・経過

1. 図書館システムを利用し、図書や雑誌などの貸出の充実に努めた。学校との連携を図った。
2. 図書館資料収集基準及び廃棄基準に基づき蔵書の整備・充実に努めた。他部署との連携を図り、出張図書館や特別展示等を実施した。
3. おとどけ図書館及びおでかけ図書館を実施した。おはなし会を4館で実施するとともに人権教育課と連携し館外でも行った。はじめてであう絵本を毎月実施した。読書活動推進事業として、利用者参加型の事業を展開した。坂本文学については、坂本遼生誕110年を記念して資料展示及び記念講演会を行った。

●ねらいに対する成果と評価

		25年度	26年度
1.	資料提供・情報提供の充実	a	b
<ul style="list-style-type: none"> ウェブ予約は、平成27年1月末現在で 18,193件、登録人数は1,604人となった。 学校との連携については、校長会等の会議に参加し、図書館の状況などを説明した。 クラス単位で団体貸出を実施した。貸出に際しては、レファレンスを行ったり、要望にそった図書の検索、提供に努めた。 			
関連事業	図書館システムの維持管理、団体貸出		
2.	魅力ある蔵書の整備・充実	a	a
<ul style="list-style-type: none"> 分類をこえて、季節や行事・世の中の出来事などをテーマに特設展示コーナーを開設した。 保健センターと連携し、保健センターの講演会に出張図書館を開設したり、保健センターのメニューに合わせた展示を行った。 平成26年度の購入資料数は、平成27年1月末時点で 14,929点で魅力ある蔵書の維持に努めることができた。また、廃棄資料数は、3,083点で廃棄図書については、市民に無償で提供した。 			
関連事業	特設展示コーナー・出張図書館		
3.	図書館進展活動の推進	a	a
<ul style="list-style-type: none"> おとどけ図書館・・・市立9小学校に対し、各小学校の要望も取り入れながら毎月100冊(大規模校には希望により200冊)の図書を届けた。 おでかけ図書館・・・市内9小学校の3年生を中心に図書館を見学し、カードを作って図書を借りる体験を行った。 おはなし会・・・4図書館で実施するとともに、人権教育課と連携し館外で人権絵本の読み聞かせを行った。おはなし会の参加人数は、平成27年1月末時点で、中央図書館 206人 滝野図書館 81人 東条図書館 23人 図書・情報センター 13人です。また、人権絵本の読み聞かせは、3回実施し、参加人数は29人です。 はじめてであう絵本・・・保健センターと連携し、4ヶ月健診時にその保護者に、絵本の意義や絵本を紹介し好評を得た。平成26年度の対象者は、27年1月末時点で、236組です。 読書活動推進事業「ヨミカツ！」・・・各図書館で、利用者参加型の催しを行い、主に若年層の利用の促進を図った。 坂本文学・・・坂本遼生誕110年を記念して、資料展示及び記念講演会を行い、広く市民に知ってもらう機会を設けた。滝野図書館ギャラリー「伝」で資料展示を行った(26年12月6日～12月14日)。来場者数 209人 滝野図書館会議場で姫路文学館学芸員の甲斐史子氏による記念講演会を実施(26年12月7日)。参加者82人 			
関連事業	おとどけ図書館、おでかけ図書館、絵本のおはなし会、はじめてであう絵本、読書活動推進事業、坂本文学展示・講演会		

●今後の課題(反省点)

1.	<ul style="list-style-type: none"> 図書の貸出が減少している中、市内の利用者を増やすため、資料提供・情報提供の充実に努める。図書館からの情報提供について、より市民に伝わるような提供の方法を検討する。
2.	<ul style="list-style-type: none"> 他部署と連携し、出張図書館や目的にあった特別展示等を積極的に行う。 図書館資料収集基準、廃棄基準に基づいて収集をしていく。 雑誌スポンサー制度の導入により、雑誌コーナーの充実を図る。
3.	<ul style="list-style-type: none"> おとどけ図書館は、図書館の職員が選書しているが、引き続き学校側の要望も聞いて改善していく。 おでかけ図書館は、教科では2年生がふさわしいという声もあるので、対象学年を拡大し、柔軟に対応する。 おはなし会は、他部署と連携しながら場所を図書館に限定せず開催していく。保育園にも声かけし、参加してもらう。 読書活動推進事業を充実させ、若年層の利用を促進する。

教育総務課

項目	総合評価	
	25年度	26年度
教育委員会の運営	A	A

●ねらい

1. 教育委員会の活性化

●取り組み・経過

<p>教育委員会での施策提言、教育委員会規則等の取り決め、学校教育や社会教育の方針決定や、学校教育・社会教育現場の</p> <p>1. 現状把握を行い、また、学校及び社会教育施設を訪問し、学校教育及び社会教育現場の実情把握を行った。 今後の幼児・児童・生徒の減少化及び学力の向上等に取り組むべく、小中一貫教育について協議を行った。</p>

●ねらいに対する成果と評価、取組経過に対する評価

		25年度	26年度
1.	教育委員会の活性化		
<p>定例教育委員会で学校教育や社会教育について活発な意見交換や、議案に対し慎重に審議が行われた。学校訪問、各種行事・研修会への積極的な参加により学校教育・社会教育現場の現状把握を行い、定例教育委員会での意見交換や提言に繋げることができた。(学校訪問、各種研修会、学校経営研究発表会、入学(園)式、卒業(園)式、成人式、オープンスクール、音楽会、人権講演会、人権研修会、スポーツ大会、文化行事等)</p> <p>また、幼児・児童・生徒の減少化及び学力の向上等に取り組むべく、小中一貫教育について協議を行った。</p>		a	a
関連事業	教育委員会一般事務事業		

●今後の課題(反省点)

1. 今後も、小中一貫教育も含め更に活発な運営をしていく必要がある。

項目	総合評価	
	25年度	26年度
安全・安心で信頼される学校づくり	A	A

●ねらい

1. 子どもたちが安心して学べる環境づくり

●取り組み・経過

質の高い教育環境の充実を図るため、老朽化や不足する小学校の教育用楽器及び中学校吹奏楽部の楽器やその他教材備品を購入した。また、安全・安心な教育環境の整備のため、老朽化した学校施設の整備・改修や計画的に学校トイレの洋式化率の向上を図った。
 東日本大震災の教訓を受け小中学校体育館の天井照明耐震化工事を実施し、その他にも小中学校の校舎避雷針設置の実設計業務を行った。また、平成25年度において導入した緊急メール配信システムを活用することで危機管理の充実を図った。

●ねらいに対する成果と評価、取組経過に対する評価

		25年度	26年度
1.	子どもたちが安心して学べる環境づくり	a	a
小中学校の老朽化や不足する楽器の整備やその他教材備品を計画的に整備することができたほか、老朽化した学校施設の整備・改修工事を行った。また、学校トイレ洋式化率の向上を図るため、滝野東小学校のトイレ洋式化工事を行い、社小学校及び滝野南小学校の実設計を行った。また、小中学校体育館の天井照明耐震化工事を実施し、安全・安心な施設整備を行った。この他にも小中学校の校舎避雷針設置の実設計を行い、平成25年度において導入した緊急メール配信システムを活用することで危機管理の充実を図ることができた。これらを実施することにより、安全・安心かつ質の高い教育環境整備を推進することができた。			
関連事業	事務局事業、小中学校施設整備事業、小中学校管理事務事業		

●今後の課題(反省点)

1. 学校間の均衡を図るため、更なる学校現場の実情把握及び学校との調整を図っていく必要がある。

教育総務課(学校給食センター)

項目	総合評価	
	25年度	26年度
健康体力づくり	A	A

●ねらい

1. 食育・健康教育の推進

●取り組み・経過

学校給食では、児童・生徒の健康の保持・増進、体位の向上を図るとともに、正しい食事の在り方や、望ましい食習慣の形成を目指している。そのために、栄養のバランス、嗜好、季節感、価格等を考え、地産地消も取り入れながらバラエティに富んだ献立内容になるように毎月工夫した。そして、安全でおいしい給食を提供し、給食の献立を「生きた教材」として活用しながら、栄養教諭が各学校の各クラスを訪問し、「自分の健康は自分で守る」という生涯にわたる健康づくりを進めていくために、各学年に応じてテーマを設定し、

1. 「食」の指導を行い、給食時間には児童と一緒に給食を食べ、普段の様子や児童の嗜好を知り、献立作成や調理方法に生かした。また、毎月配布の「かとうの献立」、「かとうの給食」を通して、給食センターと学校、家庭とが連携して食育を進めていけるよう啓発した。さらに学校給食を身近に感じてもらえるように給食センター見学会や給食試食会、親子料理教室等を実施した。また、昨年度より実施の「かとう夢プラン 楽しみのある学校給食特別メニュー」を月に1回実施し、地産地消の食材を取り入れた献立や社高校生活科学科の生徒が考えた献立を提供した。

●ねらいに対する成果と評価

25年度 26年度

1.	食育・健康教育の推進	25年度	26年度
	<p>献立作成においては、色々な食品をバランスよく使い、同じ献立が重ならないように、和風・洋風・中華と色々な種類のものを工夫して取り入れ、行事食や旬の食材の提供、地元食材の使用促進、さらに、子どもたちからのリクエストメニューや新メニューを取り入れるなど、食に関心を持ってもらえるよう工夫した。また、今年で4年目を迎えた社高校生活科学科との連携事業である「学校給食研究事業」では、高校生の考案した献立も提供した。</p> <p>その他にも、昨年度から実施の「かとう夢プラン 楽しみのある学校給食特別メニュー」の提供においては、加東市の学校給食の特色を出して食への興味・関心を高め、より一層の魅力ある学校給食の充実を図ることができた。また、食育の推進に向けては、給食の献立を「生きた教材」として活用しながら給食指導訪問を実施し、給食センター、学校、家庭との連携による食育推進を図る為、毎月の「かとうの献立」「かとうの給食」の配布や給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室等を実施することができた。</p> <p>これらの取り組みにより、児童・生徒の心身の健全な発達と食に関する正しい理解と適切な判断力を養い、学校給食を活用した食に関する指導及び学校における食育の推進を図ることができた。</p>	a	a
関連事業	給食指導訪問、給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室社高校生活科学科との連携、楽しみのある学校給食特別メニュー		

●今後の課題(反省点)

小学校では給食指導に学校全体で取り組んでいるため、残菜量は年々減ってきているが、中学校では給食量が増えるからか、残

1. 菜量が目立つので、中学校でもさらに給食指導を進めてもらえるよう啓発していきたい。また、地産地消の推進のために、さらに地元の食材を取り入れていけるよう努めていきたい。

評価委員所見

評価委員 堀井洋一

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
幼稚園・学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい教育課題に積極かつ地道に取り組んでいる。その結果、教育効果が上がり前年度に比して改善されてきたことは大いに評価できる。(例：兵庫型教科担任制・ICT教育の推進・朝の読書・幼保小発達支援連絡会等)。 ○ 学校図書館と公立図書館の棲み分けの明確化が望まれる。
社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3町合併により、施設の適正配置等課題が山積する中、創意工夫した運営や事業の推進が展開されている。今後、課題解決のために社会教育委員会をはじめ、各種審議会等を活用しながら、さらに自治能力を持った市民を育てる方向で、大胆に改革が進められることを期待する。そのことは、市のまちづくりの方向に直結する。 ○ 人権啓発の取組については、学習の必要課題という難しさがある中、創意工夫した地道な取り組みが推進されていることは、高い評価ができる。
教育行政	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育環境づくりにおいては、年々着実に環境整備が進められ、改善されてきている。先導的な取り組みとして、トイレの洋式化や教育制度における小中一貫校の議論開始は高い評価に値する。

総 評
<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価委員を平成21年度からさせていただいているが、年々課題に対して、各分野での改善が進んできたことは大いに評価できる。これも、教育長を筆頭に関係職員をはじめ、関係者の地道な「知恵だし 汗だし」の積み重ねの結果である。今後、小中一貫校の議論が益々高まることを期待したい。

評価委員所見

評価委員 荒木 勉

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
幼稚園・ 学校教育	「加東の教育」の具現化をたどる歩みが示され、今後への期待は一番 大なるものがある。
社会教育	例年のように、多様な事業の実施において、市民のニーズに応えようとして ただ、社会教育の充実には行政と市民の協調に依存しているため、今後は 市政を単なる受益者扱いとするのではなく、市民も適宜に積極的に参画 できるように展開を期待したい。
教育行政	教育行政における「点検・評価」の充実こそが、学校教育や社会 教育の発展を促すと考えられる。 しかし、本年度の「点検と評価」が、個別事業の系統や枠による 体系についての「選択・集中の推進」等に活かされることは疑い 得ないよう感じられる。

総 評
平成25年度と同様に、PDCAサイクルの構築と併せて、「加東市教 育基本計画」が点検・評価されている。 今後においても、この「点検と評価」が、年次を問わず「Coupler」と して、新たな事業の実施や「選択・集中の推進」に機能する段 階に至っていることを強く感じさせてくれている。